

## オーデリック[R15]の魅力

すぐれた演色性 R15 : 94<sup>\*1</sup> Ra : 94 <sup>\*1:5000Kの場合。</sup>

### 先進の技術が、 肌とくらしを美しく魅せる

日本人の女性の肌の色をどれだけ正しく再現できるか、という規格上の呼び方を由来とする「R15」。顔や肌をより美しく見せるとともに、くらしのあらゆるものを色鮮やかに表現します。



太陽光



高演色LED[R15]  
クラス2



従来型LED

## 肌とくらしのすべてを彩るR15の光

### 高効率と両立した高い演色性

高演色[R15]は、色の再現性を上げると発光効率が著しく低下してしまうという、これまでの技術的課題を解決しています。省エネ性もそのままに、発光効率を落とすことなく日常を美しく表現します。



### 高効率と高演色性の両立 ~平均演色評価数 Ra94 高演色形 クラス2

「R15」は、かつてLEDの弱点といわれた肌の色の細かな差異や唇の赤、日常に存在するあらゆるものの色について、発光効率を落とすことなく美しく表現します。この性能は、JISで定める平均演色評価数Ra94という高い数値にも表れています。

### 「R15」シリーズ 演色評価数(5000K時)

演色性区分	Ra	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
高演色形 クラス2	94	97	94	89	94	95	91	95	96	85	84	93	69	96	93	94

### JIS Z 9112:2019 新規格

「R15」はJISが定める演色性の種類「クラス2」の基準を満たしています。

#### 高演色形 高演色形は、次の4種類に区分する。

- 1)クラス1 クラス1は、事務所などにおける事務作業、工場における組立作業又は検査、学校における授業、住宅における勉強又は家事などの屋内でのやや精密な視作業を行う場合などに推奨される。
- 2)クラス2 クラス2は、事務所、住宅などで色を用いたコミュニケーション又は顔を見てのコミュニケーションを伴う作業、工場における色が重要な組立作業又は検査、医療機関などにおける診察、店舗などで商品、顔などの色の見えが重要視される販売又はサービス提供を行う場合などに推奨される。
- 3)クラス3 クラス3は、美術館、博物館などで美術品を展示、鑑賞する場合などに推奨される。美術館又は博物館において照射光による展示物の損傷が懸念される場合には、白色(W)、温白色(WW)又は電球色(L)を用いることが望ましい。
- 4)クラス4 クラス4は、色比較用ブースを用いて表面色の色検査を行う場合など、特に色再現の忠実性が求められる場合に推奨される。塗装物、染色物、印刷物などの物体の表面色を視感によって比較する場合には、昼光色(D)又は昼白色(N)を用いることが望ましい。

演色性の種類	演色評価数の最低値							
	Ra	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
普通形	60	—	—	—	—	—	—	—
高演色形 クラス 1	80	—	—	—	—	—	—	—
高演色形 クラス 2	90	—	—	—	—	—	—	85
高演色形 クラス 3	95	75	—	—	—	—	—	—
高演色形 クラス 4	95	85	85	85	85	85	85	85

JIS Z 9112 : 2019 より